

# 災害に備える

一番大事なものは、あなたの命、みんなの命  
まずは、あなたの身のまわりから！

- 部屋の配置を見直し、常に整理整頓をする。
- 書棚等を固定する。重い物やガラス器具などは、棚の下部に移す。
- ガラス書棚や、窓ガラスの飛散防止等の策をとる。
- 照明器具及び額、時計、壁に掛けている物等が落下しないよう補強する。
- 廊下、階段、出入口に荷物等を置かない。避難するときの通路を確保しておこう。
- 消火器・消火栓の設置場所を確認し、使い方を知る。
- 非常持ち出し物品等は平素から用意する。
- 電気のブレーカーや、ガス・水道の元栓の位置を確認する。
- ガスボンベなどは鎖で固定する。



# I 火災が発生したら

## 1. 火災が発生した場合

- ・火災発見者は、大声で「〇〇〇が火事だ！」と連呼し、火災報知器ベルを鳴らし、消防署へ連絡し、各部署の担当掛・学生窓口で火災の場所、状況等を通報し、周辺に火災を知らせる。

### 注意

- ※ 炎又は煙が室内に充満している場合は室内に入らない。
- ※ 炎が急に大きくなるので扉はむやみに開けない。

### 初期火災の発見者は……

大声で〇〇〇が火事だと連呼し、直ちに消火器・消火栓を用いて初期消火にあたる。なお、危険防止のためやむを得ない場合を除いてなるべく二人以上で消火に当たる。

## 初期消火が被害の拡大をくい止める



火事だー

あわてることは火災を大きくする。



初期活動の3原則  
(早く知らせる・早く消す・速く逃げる)

## 2. 火災が発生した場合の避難方法等

- ・消火器等で初期消火ができなかった時は、速やかに避難する。
- ・できるだけ姿勢を低くし、タオルなどで鼻や口を押さえ煙をできる限り吸い込まないようにして避難する。
- ・避難する時は階段を利用し、将棋倒しになる可能性があるので、「かけ降り」はしないよう落ち着いて、責任者・案内放送等の指示に従って避難する。
- ・避難経路が指定されている時は、それに従い、そうでない時は安全を確認しながら避難する。
- ・避難の時は、非常持ち出し物品等の必要最小限のものだけ持ち出すようにする。
- ・防火扉は、火災が発生すると自動的に閉まるので、手で開けて避難する。
- ・火災が発生すると防火シャッターは、自動的に閉鎖されてしまうので補助扉を手で開けて避難する。
- ・延焼防止のため必ず扉は手で閉めて避難する。

## 119番通報

火事です。  
大阪大学〇〇〇学部で火災が発生しています。  
住所は〇〇〇市〇〇〇町〇番〇号です。  
目標物は〇〇〇会館の東側です。  
私の電話番号は、〇〇〇-〇〇〇〇  
名前は、〇〇〇〇です。

住所、大学、学部名  
目標物をハッキリと！



## 屋内消火栓の使い方

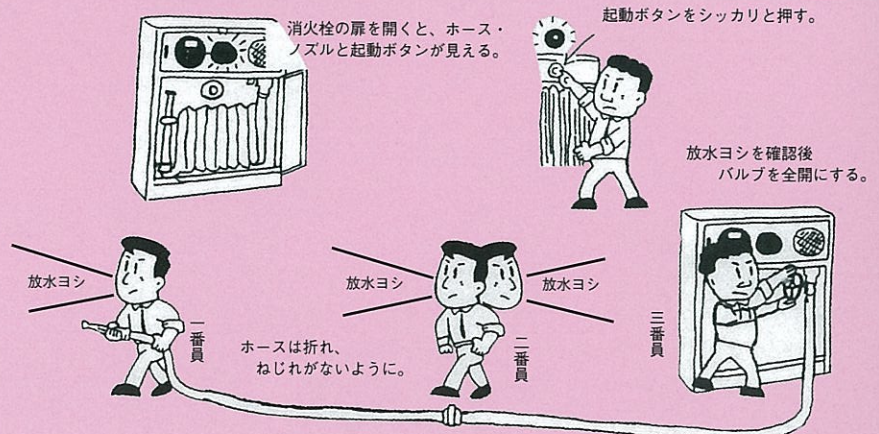
- ア 消火栓ボックスの戸を開ける。
- イ ホースをのばす。
- ウ 消火ポンプの起動ボタンを押す。(起動ランプ表示)
- エ 放水バルブを開き放水する。

## 消火器の使い方



- 安全ピンに指をかけて上に引き抜く。
- ホースをはずして火元に向ける。
- レバーを強くにぎって火元にふきかける。

消火器は各階の20m以内に配置しています。  
風のある場合は風上からふきかける。  
射程距離内に近づき手前からふきかける。

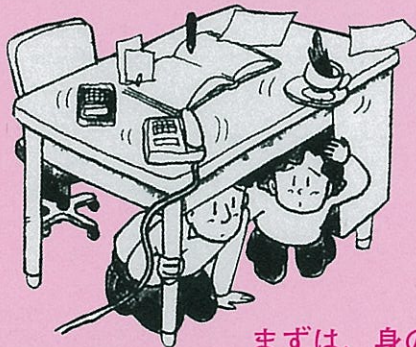


## II 地震が発生したら

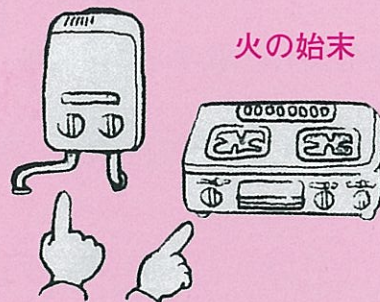
### 1. 地震が発生した場合

地震が発生した場合、災害から生ずる被害を最小限に食い止めるため迅速かつ的確な応急対策をとる。

- ・ドアが変形し開かなくなり避難できなくなるおそれがあるので、出入口のドアを開け出口を確保する。
- ・机、テーブルなどの下に身を伏せ落下物から身を守る。
- ・戸棚、保管庫など倒れるものから身を離す。
- ・建物の高層階は揺れが大きいため、窓際から離れ、柱や廊下の手すりなどにしがみつ়く。
- ・エレベーターに乗っている時は、すべての階のボタンを押して、近い階に素早く降りる。
- ・頭上からガラスの破片などが降ってくることもあるので、あわてて屋外へ飛び出さない。
- ・身近にある電気・ガス器具・実験用機器等の元栓の閉止、電源の遮断をする。  
(地震がおさまってから、電気・ガス器具、実験用機器などを使用する場合は、点検・検査をし、異常の有無を必ず確認すること。)
- ・地震により出火した場合は、初期消火に努める。
- ・使用中の危険な薬品や試料などは、できるだけ密閉したのち安全な場所に置く。



まずは、身の安全を



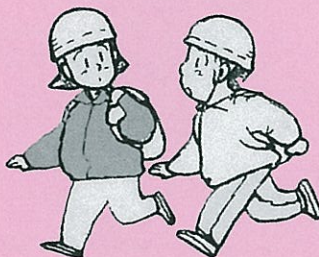
火の始末

避難する前に、  
もう一度火の元を確かめて

地震で一番恐ろしいのは  
出火=大火災

### 2. 地震が発生した場合の避難方法等

- ・あわてて外に飛び出さず、まず火の始末をする。
- ・落ち着いて行動し、出口や階段に殺到することなく、責任者などの指示に従う。
- ・階段を利用して落ち着いて避難し、窓ガラスなどが落下してくることもあるので、建物から離れて、頭をかばんなどで保護して落下物から身を守る。
- ・避難経路が指定されている時は、それに従い、そうでない時は安全を確認しながら避難する。
- ・避難の時は、非常持ち出し物品等の必要最小限のものだけ持ち出すようにする。
- ・余震は、一般に本震よりかなり小さいので恐れずに、デマに迷わされないこと。
- ・切れた電線は感電の危険があるので、近づかない。



避難は徒歩で。  
車やオートバイは厳禁



地域での協力

#### 参考

大学周辺の広域避難地

豊中市：大阪大学待兼山地区

茨木市：万博記念公園周辺 他

吹田市：万博記念公園周辺、千里北公園周辺 他

箕面市：第二総合運動場周辺

## 地震の震度

震度とは、地震の大きさではなく、ある特定地点の揺れ方の大きさを示す尺度です。  
一般的に、震源域の近くでは震度は大きく、遠く離れるにつれて小さくなります。

震度階級関連解説表(抜粋)

階級	人間	屋内の状況	屋外の状況	階級	人間	屋内の状況	屋外の状況
0	人は揺れを感じない。			5(強)	非常な恐怖を感じる。多くの人が行動に支障を感じる。	棚にある食器類、書棚の本の多くが落ちる。テレビ台から落ちることがある。タンスなど重い家具が倒れることがある。	補強されていないブロック塀の多くが倒れる。自動販売機が倒れることがある。自動車の運転は困難となる。
1	屋内にいる人の一部がわずかな揺れを感じる。						
2	屋内にいる人の多くが、揺れを感じる。眠っている人の一部が目覚ます。	電灯などのつり下げ物がわずかに揺れる。		6(弱)	立っていることが困難になる。	固定していない重い家具の多くが移動、転倒する。開かなくなるドアが多い。	かなりの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。
3	屋内にいる人のほとんどが揺れを感じる。	棚にある食器類が音を立てることがある。	電線が少し揺れる。				
4	かなりの恐怖感があり、一部の人は身の安全を図ろうとする。眠っている人のほとんどが目覚ます。	つり下げ物は大きく揺れ、棚にある食器類は音を立てる。座りの悪い置物が倒れることがある。	電線が大きく揺れる。歩いている人も揺れを感じる。自動車を運転していて、揺れに気付く人がいる。	6(強)	立っていることができず、はわないと動くことができない。	固定していない重い家具のほとんどが移動、転倒する。戸がはずれて飛ぶことがある。	多くの建物で壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。補強されていないブロック塀がほとんど崩れる。
5(弱)	多くの人が身の安全を図ろうとする。一部の人は行動に支障を感じる。	つり下げ物は激しく揺れ、棚の食器類、書棚の本が落ちることがある。家具が移動することがある。	窓ガラスが割れて落ちることがある。電柱が揺れるのがわかる。補強されていないブロック塀が崩れることがある。				
				7	揺れにほんろうされ、自分の意志で行動できない。	ほとんどの家具が大きく移動し、飛ぶものもある。	建物の壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。補強されているブロック塀も破損するものがある。

※ 気象庁の震度問題検討会がまとめたものである。(平成7年11月29日)

## 通勤・通学の途中で...

### 車を運転中

- ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、道路の左側に止め、エンジンを切る。
- 揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。
- 避難が必要なときは、キーはつけたまま、ドアロックはしない。車検証や貴重品を忘れずに持ち出し、避難は徒歩で。



### 電車などの車内

- つり革や手すりに両手でしっかりつかまる。
- 途中で止まっても、非常コックをあげて勝手に車外へ出たり、窓から飛び降りたりしない。
- 乗務員の指示に従って落ち着いた行動を。



### 路上

- 窓ガラスなどの落下物から頭をカバンなどで保護して、空き地や公園などに避難する。
- 近くに空き地などのないときは、周囲の状況を冷静に判断して、建物から離れた安全性の高い場所へ移動する。
- ブロック塀や自動販売機などには近づかない。



# III 風水害が発生したら

## 1. 風水害が発生した場合

暴風雨等により災害が発生した場合又発生する恐れのある場合、災害から生ずる被害を最小限に食い止めるため迅速かつ確かな応急対策をとる。

- ・ 確実な情報をいち早く知る。
- ・ 建物、樹木等の補強を確認する。
- ・ 日頃から側溝のごみつまりなどに注意すること。
- ・ 集中豪雨、長雨のあと、堤・下水管等の崩壊に注意すること。

### 風圧と被害の関係

風速 m/s	風圧 kg/m <sup>2</sup>	風の状況
10	5	さしている雨傘がこわれる。
15	12	とりつけの悪い看板やタンが飛ぶ。
20	20	風に向かって歩けない、子供は歩けない。
25	31	煙突や屋根瓦が飛び、テレビアンテナが倒れる。
30	45	雨戸が外れ、倒れる家もある。
40	80	小石が飛び散り、立って歩けない。
50	125	大方の木造家屋は倒れ、樹木は根こそぎ倒れる。

### 雨量の現し方

雨の強さは、1時間に雨量が何ミリに達するかで大体決まります。

1時間の雨量	雨の降り方
5～10mm	雨の降る音がよく聞こえ、たちまち地面に水たまりができる。
10～20mm	地面一面に水たまりができ、雨音で話し声が良く聞こえない。長雨のときは警戒が必要。
20～30mm	どしゃぶりで下水がたちまちあふれ、小河川がはらんし、がけ崩れの危険がある。
30mm以上	バケツをひっくり返したような表現がピッタリの激しい雨、危険地帯では避難体制に入らなければならない。

1mmの雨とは、1m<sup>2</sup>当たり1ℓの雨量で畳2枚の表面積に1.8ℓびん2本分の雨が降ったのに相当します。

## 台風情報・気象情報に注意を



※ 一般的に、台風の進路に対し右側は風が強く、左側は雨が強い。



## 2. 風水害が発生した場合の避難方法等

消防・警察その他関係機関等の情報を収集し、避難方法等については責任者などの指示に従う。

### 〈洪水の中を非難するときは〉

- ・ ヘルメット等防具を付け、露出部分の少ない服装で避難する。
- ・ 裸足、長靴は禁物。紐で締めつけられる運動靴がよい。
- ・ はぐれないようお互いのからだをロープで結んで避難する。
- ・ 高齢者や身体の不自由な人などは背負う。幼児は浮袋、乳児はベビバス等を利用して安全を確保して避難させる。
- ・ 水面下にはどんな危険が潜んでいるかわかりません。長い棒を杖がわりにして安全を確認しながら歩く。
- ・ 切れた電線は感電の危険があるので近づかない。

# [防災の心得]

## 1. 火災が起きたら

火元の確認

火や煙を発見したら、近くの者はかけつける

火災報知ベル

火災を確認したら火災報知ベルを鳴らすとともに、大声で周辺に火災を知らせる

初期消火

消火器・消火栓を用いて初期消火に努める

放送に従い避難

放送により、避難経路を確認し、避難場所に避難する

避難は階段で

避難の際、階段の昇り降りは落ち着いて行動する

## 2. 地震が起きたら

外へ飛び出さない

「落ち着け!」と声を掛け合い、建物内に留まる

身を守る

机、テーブルなどの下にもぐり、頭を覆い机などの足をしっかり握る

火の始末

「火を消せ!」と声を掛け合い、電気・ガスの元栓等を閉める

エレベータ使用禁止

使用中の者は、直ちに最寄りの階で降りる

※ 詳細は各部局の防災マニュアル等を参照のこと